

池田敏美先生に捧ぐ、音と想いの集い

音楽家・池田敏美先生を偲ぶ集い&追悼コンサート

本イベントは2部構成で行われ、第一部は「偲ぶ集い」としてスタートしました。ご子息の池田純さん（東京都）をはじめ、都内や東北で長年にわたり共に演奏活動を続けられたソプラノ歌手・渡邊敦子さん（東京都）、地元最上町で「音の風プロジェクト」の活動を共にした伊藤勝さんの3名が登壇し、故人との思い出を語り合いました。司会進行は、「幸高ラジオ」の伊藤優翔さんが担当しました。

会場からも偲ぶ声があり、観客と登壇者が一体となって故人の功績や温かな人柄を振り返るひとときとなりました。音楽家としての軌跡や地域活動への尽力など、さまざまな角度から池田先生の思い出が紹介され、来場者は静かに耳を傾けながら、共に偲ぶ時間を共有しました。



池田敏美（いけだとしみ）。1944年生まれ。旭川市出身。武蔵野音楽大学器楽科および専攻科卒業。1969年、オーケストラを目指した新星日本交響楽団の創立に参加。2001年、オーケストラの合併により東京フィルハーモニー交響楽団団員となる。2003年2月、フリーとなり全国で生の音楽をじかに聴いていただく活動を続け、その数は1200回以上に及んだ。約四半世紀にわたり最上町に居を構え、演奏活動を通じて地域音楽文化の振興に尽力された。さらに2011年3月の東日本大震災発生直後より、音楽の力で被災者の心を癒やし、地域と地域、人と人を結びつけることを願い、ご長男の故・池田弦氏と共に「音の風プロジェクト」を立ち上げ、被災地支援コンサートの開催や仮設住宅・避難所への訪問演奏、子どもたちの交流支援などを通じて、復興支援に力を注がれた。毎年、最上町内で「音の風コンサート」に出演する傍ら、企画運営面でも意欲的に取り組んでいた。2015年、自身初のソロアルバム「音の風」を発表。2024年8月23日逝去。享年81歳。



続く第二部は「追悼コンサート」として行われました。出演者は、故人のお孫さんで高校1年生のヴァイオリニスト・池田琥珀さん（東京都）をはじめ、ソプラノの渡邊敦子さん（東京都）、メゾソプラノ・アルパ奏者の池山由香さん（東京都）、共に寒河江市在住のチェロの鈴木信哉さんとピアノの鈴木布美子さん、同じくピアノの畠山あかりさん（戸沢村）、指揮の矢部曉さん（新庄市）、そして町内合唱グループ・最上町コーラス隊『絆』の皆さんが出演されました。

コンサートでは、故人との思い出の曲をはじめ、震災復興支援にちなんだ「音の風プロジェクト」の楽曲が披露され、会場を魅了しました。演奏者それぞれの感情のこもった演奏と合唱が響き渡り、参加者は故人の音楽への情熱や地域への貢献を改めて感じる事ができました。

特別展示会も開催、会場は満席に

さらに、同会場内では、パッチワーク教室『やまばうし』の皆さんによる特別展示会も開催され、来場者は音楽とともに、手作りの美しいパッチワーク作品を楽しむことができました。コンサートと展示会の双方が、会場の熱気をさらに高め、参加者は音楽と文化を同時に体感できる贅沢な時間を過ごしました。

200名超の来場者が故人を偲ぶ

10月5日（日）、旧瀬見小学校体育館を会場に「音楽家・池田敏美先生を偲ぶ集い&追悼コンサート」が開催されました。主催は、池田敏美先生を偲ぶ会実行委員会（大場武男実行委員長）。当日は町内外から200名を超える入場者が集まり、芸術の秋にふさわしい雰囲気の中、故人を偲ぶひとときを過ごしました。

温かな音色と想いが未来へつながる

今回のイベントは、故・池田敏美先生の生涯と功績を、地域の人々とともに温かく振り返るかけがえのないひとときとなりました。会場には町内外から多くの方々が集まり、先生を慕う声と笑顔があふれました。特に、故人と深いご縁のある50名を超える地元スタッフの皆さんが、心を込めて手作りで準備・運営にあたり、一つひとつの演出や展示にその思いがにじみ出ていました。

コンサートでは、演奏のたびに会場の隅々まで音色が響き渡り、人々の心を揺さぶりました。池田先生の優しさや情熱、地域への深い愛情は、この日を通して改めて多くの方々の胸に刻まれ、涙と笑顔とともに共有されました。



まちトピ town topic



最上町サッカー交流大会 兼第9回サンパウロFC杯を開催

9月27日、28日の2日間、西公園を会場に最上UNITED.FC スポーツ少年団主催の「令和7年最上町サッカー交流大会兼第9回サンパウロFC杯」が開催されました。同大会は東日本大震災以降、被災地域とのスポーツ交流を目的に始まり、今年で12回目を迎えます。また、最上町と交流があるサンパウロFCからトロフィーを寄贈いただいた縁をきっかけに、サンパウロFC杯も同時開催として9回目となります。今年は山形、岩手、秋田、福島、宮城から16チーム・約250名の選手が出場し熱戦が繰り広げられました。



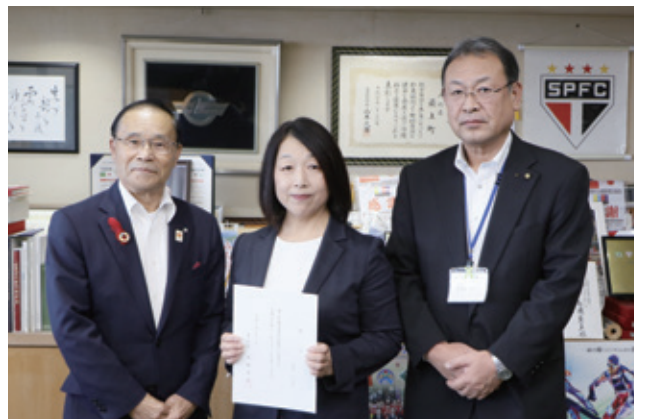
最上校生徒がサツマイモ収穫体験 総合的な探求の時間

10月2日、最上校の1年生12名が6月に植えたサツマイモの収穫を行いました。快晴に恵まれたこの日、「あまはずき」という品種のサツマイモを手作業で掘り出し、大小合わせて500本、約200キロを収穫しました。生徒たちは「あんなに小さかった苗が、こんなに大きく育つなんて!」と感激しながら作業に取り組みました。収穫されたサツマイモは赤倉ゆけむり館の直売所で販売されており、生徒たちは農産物の生産から販売までの現場を学ぶ貴重な体験となりました。



明石二三江さん（前森二）が 町教育委員に再任

町議会 9月定例会において、教育委員再任の同意を受けた明石二三江さん（前森二）に、町長より辞令が交付されました。任期は10月1日から4年間です。明石さんは平成25年から教育委員を務めており、今回で4期目となります。引き続き、町の教育振興にご尽力いただけることを期待しています。



企業版ふるさと納税で地域防災力を向上！町へブランケットを寄附



企業版ふるさと納税は地域振興を支援する重要な仕組みであり、最上町の発展へ大きく寄与しています。このたび令和7年9月、アドベンチャーホールディングス株式会社様より企業版ふるさと納税を活用し、ブランケット980枚（1,830,000円相当）のご寄附をいただきました。今回のご寄附は「地域防災力向上資機材整備事業」に活用させていただきます。事業者様の温かいご支援に深く感謝申し上げますとともに、最上町のさらなる発展に向け、より一層取り組んでまいります。